

令和5年12月4日 朝礼

施設長 柳川右千夫

インフルエンザ感染から学び、今後に備える

先月に専門棟で27名の入所者がインフルエンザに罹患しました。また、職員が6名罹患しました。スタッフの皆さんが不平を言うことなく頑張っていたいただいたおかげで、27日に収束することができました。

インフルエンザの特徴についてまとめてみました。

- 1：(病原体) インフルエンザウイルス
- 2：(感染経路) 主に飛沫感染。接触感染もある。
- 3：(感染期間) 発熱1日前から3日目をピークとして7日頃まで。ウイルス排出のピークは、発症後2～3日目。

発生時の対応

<疑うべき症状と判断のポイント>

- 1：急な発熱(38℃以上)と全身症状(全身倦怠感、頭痛など)。
- 2：上記症状と同時、或いはやや遅れて、咽頭痛、鼻汁、咳、痰などの気道炎の症状。
- 3：消化器症状(腹痛、嘔吐、下痢など)を伴う場合あり、

<感染を疑ったら～対応の方針：みつかり次第隔離し、感染拡大阻止>

- 1：インフルエンザを疑ったら(診断された場合)、基本的には個室対応とする。
- 2：複数の利用者にインフルエンザの疑いがある場合は、同じ症状の方を同室にする。
- 3：積極的に抗原検査を行う。
- 4：感染者と同室にいた利用者等インフルエンザウイルスに暴露された可能性が高い人に対して、抗インフルエンザ薬(タミフル)の予防内服を検討する。

<感染予防対策>

- ・予防対策の基本(マスク・換気・黙食・手指消毒等)を守る。
- ・不特定多数と接触の場合は、2日間ルールで休む。
- ・疑う症状があったら、積極的に病院受診する。上司に相談する。

